

様式 F-7-1

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（平成30年度）

所属研究機関名称		大妻女子大学	機関番号	32604
研究 代表者	部局	文学部		
	職	講師		
	氏名	榎本 恵子		

1. 研究種目名 基盤研究(C)(一般) 2. 課題番号 17K02598

3. 研究課題名 17・18世紀フランスにおける文献資料に見るモリエールと古典ラテン喜劇作家の受容

4. 補助事業期間 平成29年度～令和元年度

5. 研究実績の概要

1643年の王位継承から1715年の死までフランスの歴史の中で最も長い治世の中で、ルイ14世は対外的な行動力と内政においてヨーロッパの頂点を極めた。そしてその功績は現在もバリの至る所に記されている。

絶対王政確立におけるルイ14世の政治的手腕の一つとして文化政策があげられるが、その中で国王のイメージ戦略を含む演劇というライブ・パフォーマンスは欠かせない。そこにはルイ14世のもとで彼の要望に応え続けた喜劇作家モリエールの存在がある。彼の古典ラテン喜劇作家から受け継いできた理想の喜劇を作り続ける劇作法、為政者と観客が求めるものを提供した作品は、「愉ませながら教え諭す」という喜劇の理論を具現化し、21世紀の我々に娯楽としての魅力と17世紀のフランス社会を写しだした文化史としての魅力を提示している。

モリエール劇団の一員ラ・グランジュの『帳簿』と、彼によって劇作家の死後出版された全集、アンドレ・フェリビアンによるヴェルサイユ宮殿における祝祭の公式報告書、モンティニ神父やバラールによる報告書、『ガゼット』、シャルル・ロビネの書簡、財務省に呼ばれたオランダ人ホイヘンスの報告書などがそれらを証明している。モリエールが古典ラテン喜劇作家の後継者であることは、第一に彼の作品がその死後も評価され続けていることに見て取れる。同時に、世紀末になって古典ラテン喜劇作家が再び仏訳され、テレンティウスの作品が翻案されたことにより、フランス喜劇の神髄に古典ラテン喜劇作家が息づいていることが明らかとなった。

6. キーワード

フランス喜劇 モリエール 古典ラテン喜劇 ルイ14世

7. 現在までの進捗状況

区分 (2) おおむね順調に進展している。

理由
主にルイ14世の政治と演劇との関係をさまざまな刊行物から検証した。ルイ14世は3回にわたるヴェルサイユ宮殿での祝祭の中で国内外にその権力を誇示した。そこで、ヴェルサイユにおける祝祭の意味と2回目までの企画の中心にモリエールがいたことを明らかにすることで、モリエールが、演劇というジャンルにおいてフランス文学史に大きな影響を及ぼしただけでなく、フランスの絶対君主制とルイ14世のイメージ戦略にも関係していたことが明らかになった。これらの事実は、演劇の底知れない影響力 かつては、イエズス会がレトリック習得に不可欠なものと認め、その影響力の大きさゆえに全面的に反対したポール＝ロワイヤルの選択が思い起こされる を我々に提示している。これにより今後、革命を前に変化する人々の意識の変遷における演劇の立ち位置を検証していく準備が整った。

2 版

8. 今後の研究の推進方策

演劇の力がモリエールの死後のフランスにどのように影響を及ぼしていったのかを検証していく。『社会契約論』ルソー、『百科全書』のディドロ、『カンディード』のヴォルテールも戯曲を書き、演劇を考察しており、モリエールを常に意識していることが見て取れる。それはモリエールの作品の内容に限らず、その劇作法を含む。それは、かつて古典ラテン喜劇作家プラウトゥスとテレンティウスが評価されたのが、その作品ではなく、劇作法であったことを彷彿させる。「フランス喜劇の父」であるモリエールがプラウトゥスとテレンティウスの後継者であることを鑑みるなら、18世紀の知識人たちにはモリエールを通してプラウトゥスとテレンティウスの潜在的な影響力があるということになる。それを明らかにしていく。

9. 次年度使用が生じた理由と使用計画

次年度の出張費、人件費・謝金等の費目及びシンポジウムのための招聘費等に充てる。

10. 研究発表（平成30年度の研究成果）

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 榎本恵子	4. 巻 -
2. 論文標題 音楽とバレエ付き喜劇『ジョルジュ・ダンダン』の本当の魅力 散文喜劇と韻文田園劇の融合	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Pretexte : Jean-Jacques Rousseau (http://pretexte-jean-jacques-rousseau.org)	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 榎本恵子	4. 巻 第17号
2. 論文標題 モリエールのドラマツルギー～Defi 挑戦<2>～『ジョルジュ・ダンダン』あるいはヴェルサイユの一夜の幻想	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『コミュニケーション文化論集』	6. 最初と最後の頁 15-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

1 1 . 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

計0件（うち出願0件／うち取得0件）

1 2 . 科研費を使用して開催した国際研究集会

計0件

1 3 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

-

1 4 . 備考

-